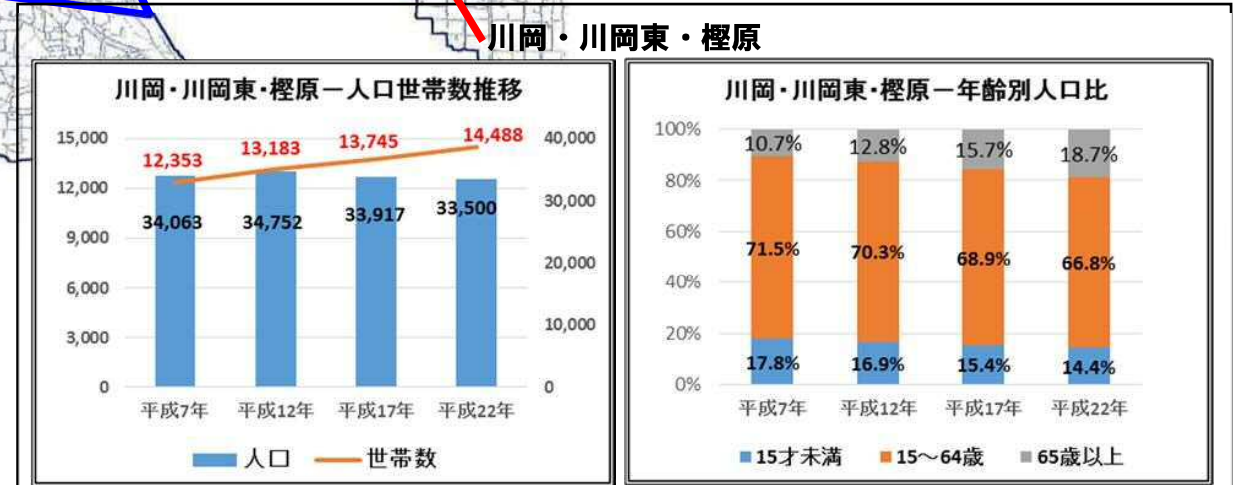
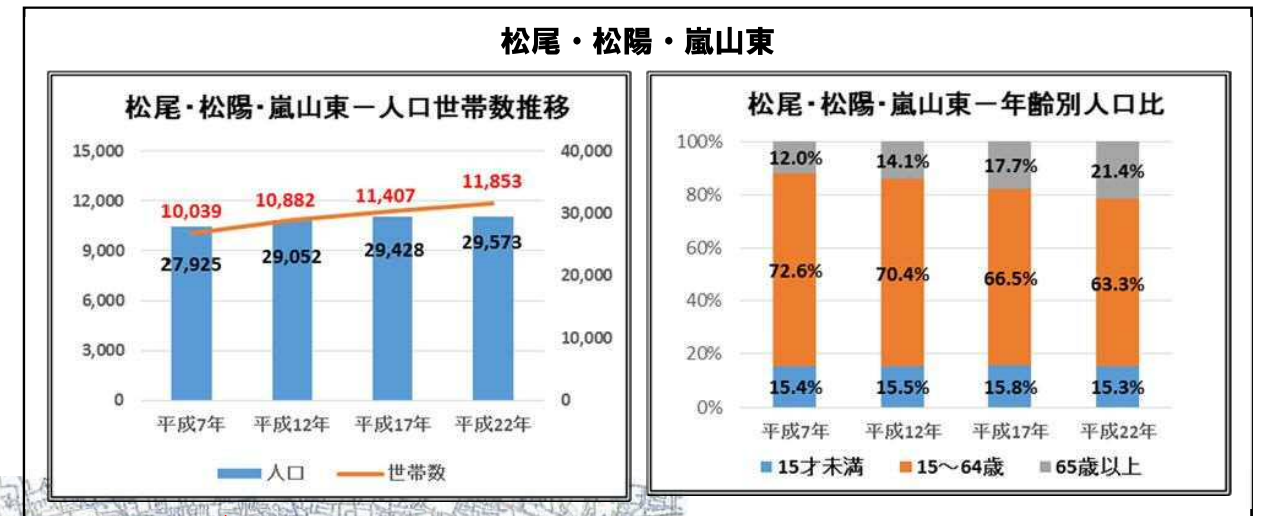
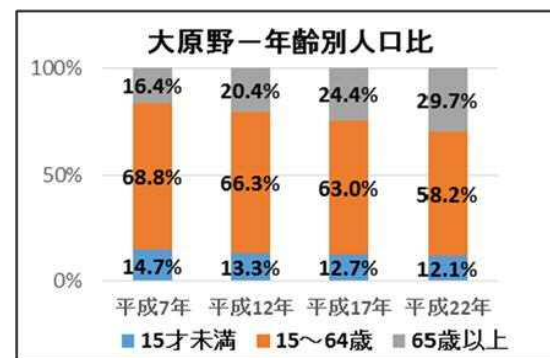
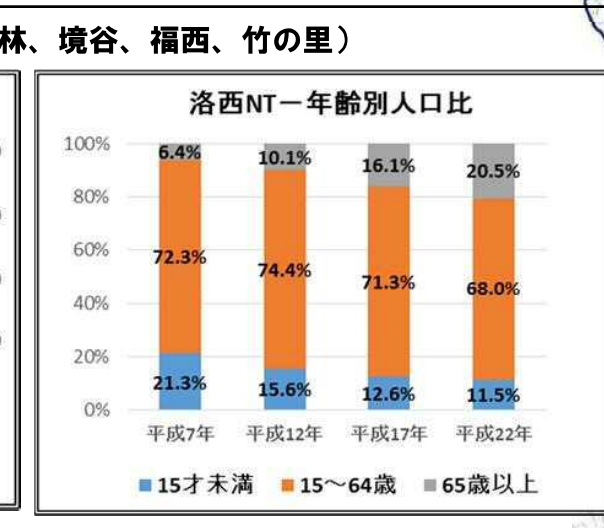
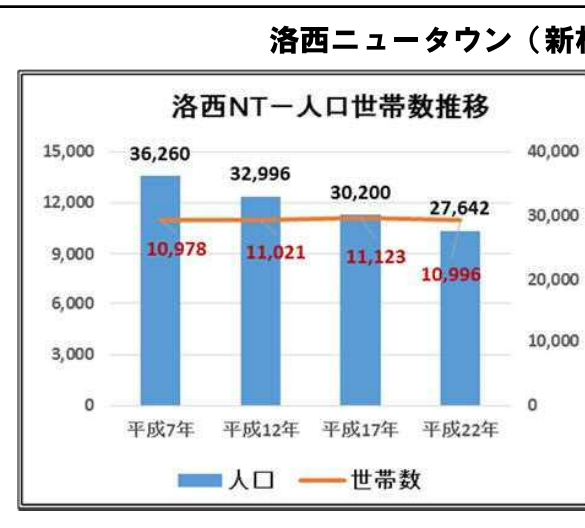
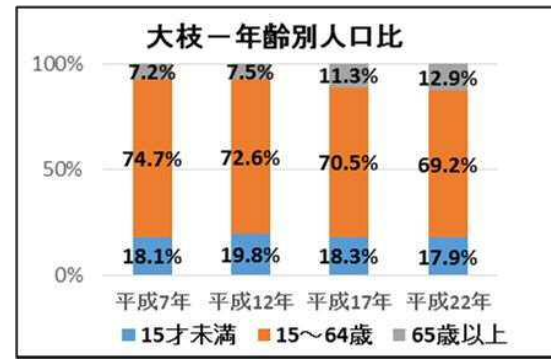
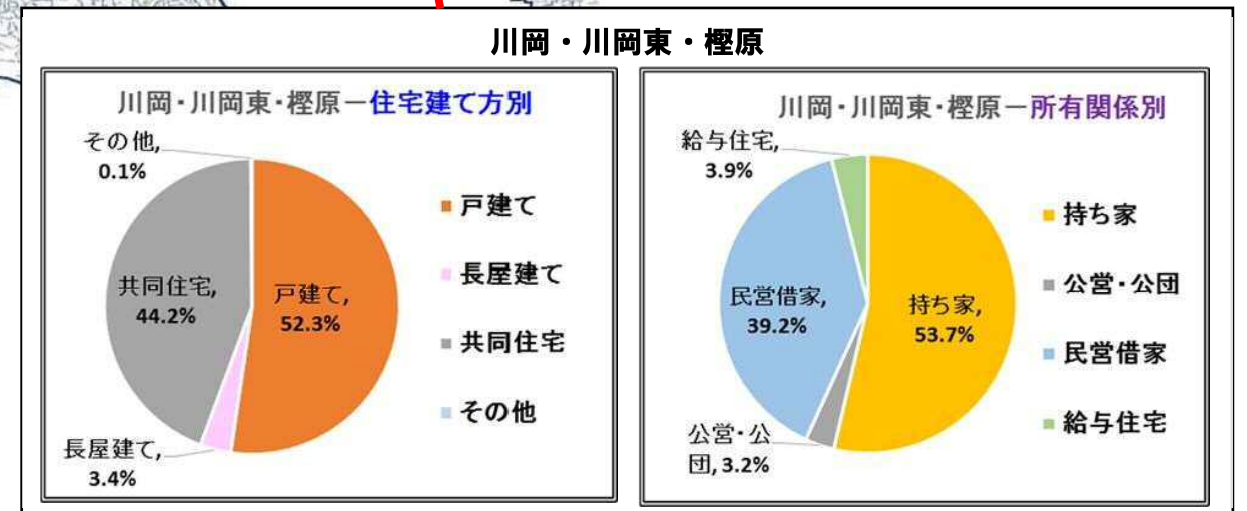


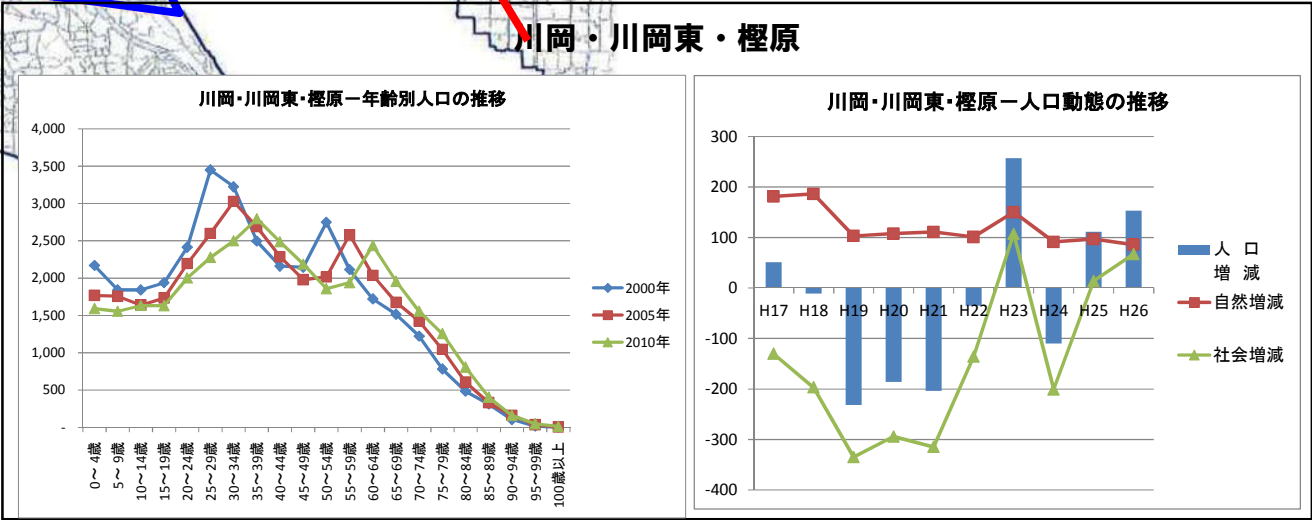
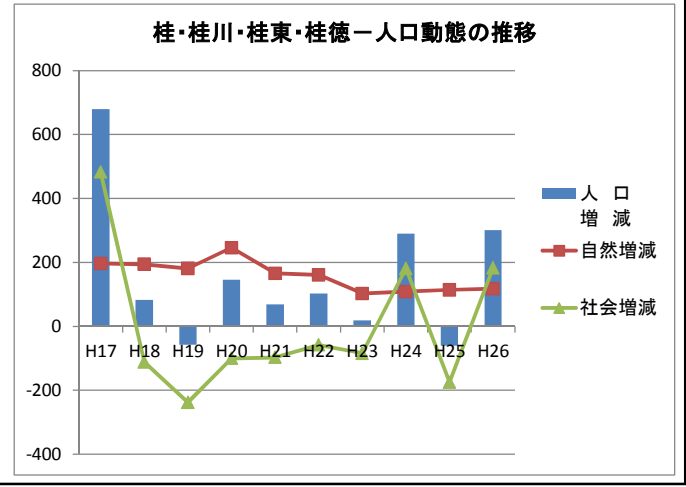
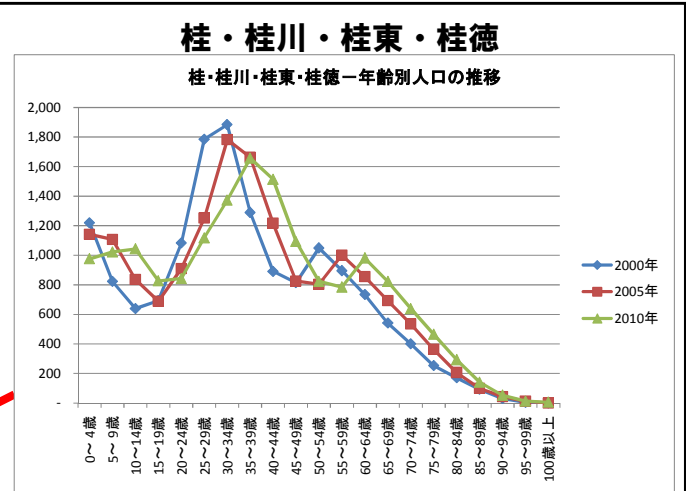
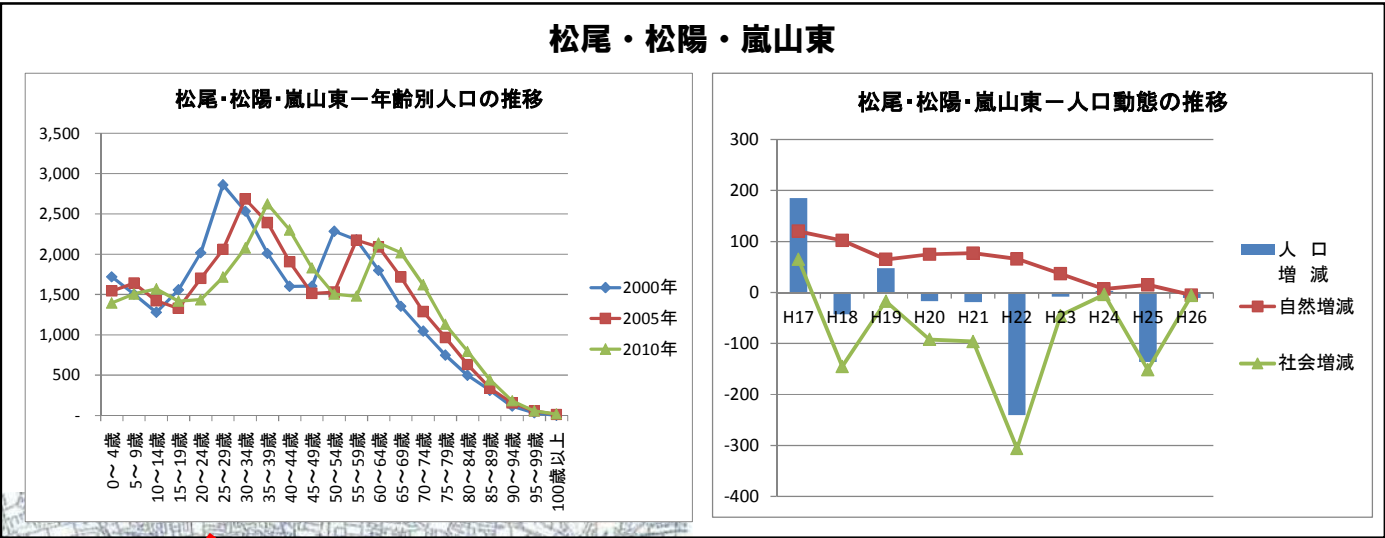
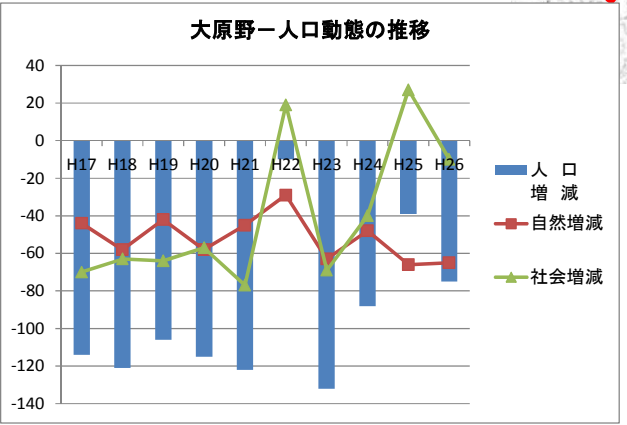
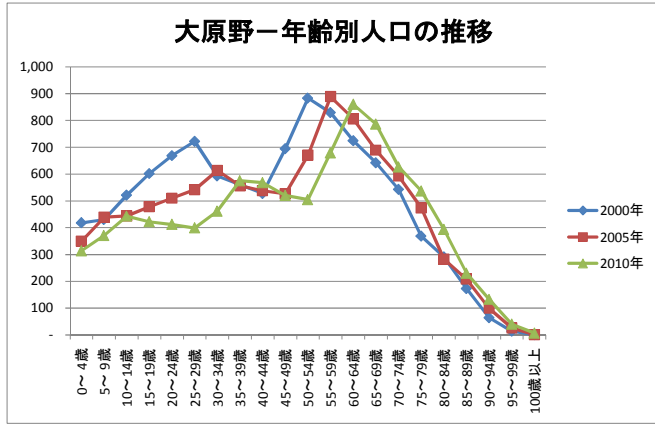
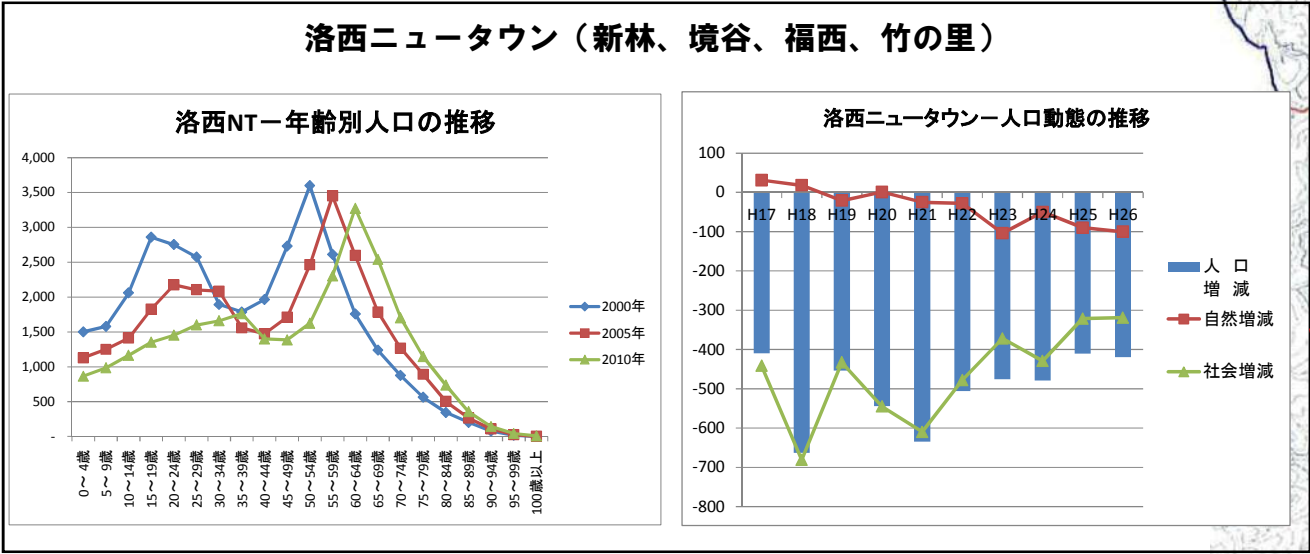
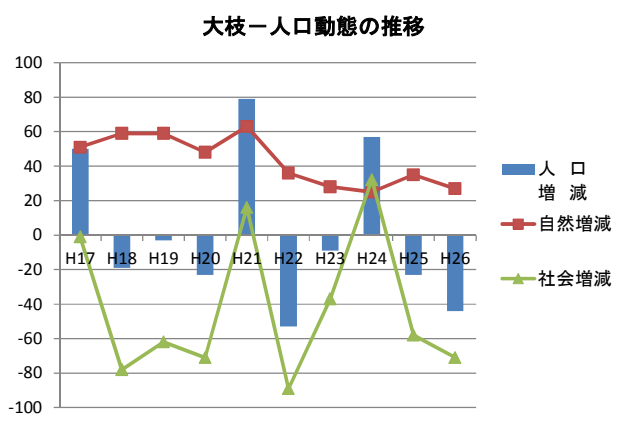
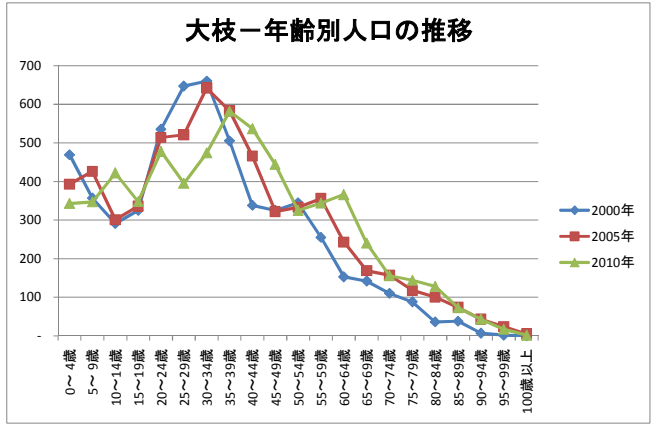
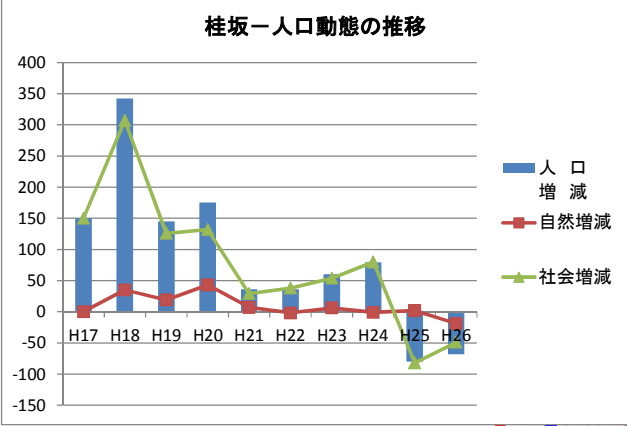
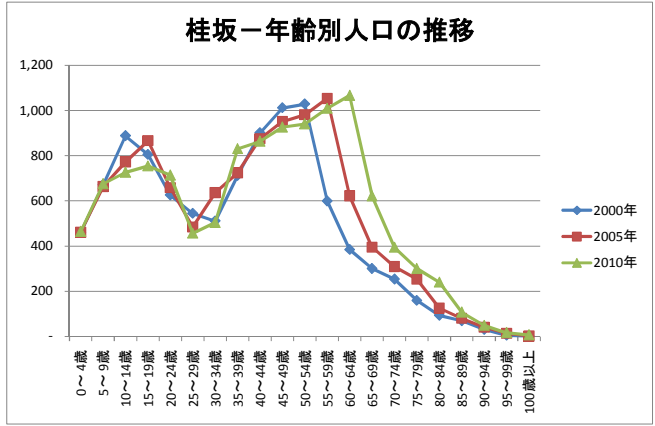
1-ブロック別・学区別のデータ(国勢調査)

(1) ブロック別・学区別人口世帯数の推移(平成7年、12年、17年、22年)





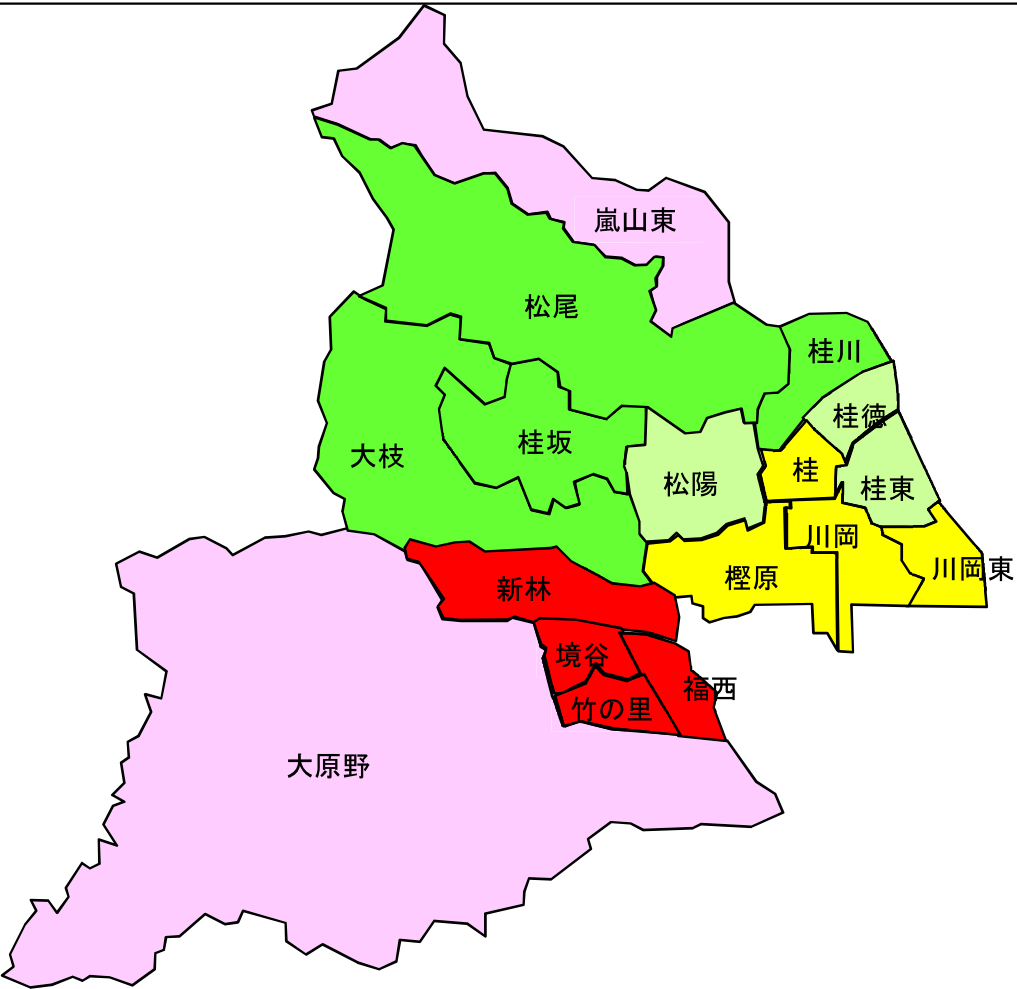
(3) ブロック別・学区別年齢別人口の推移(平成12年、17年、22年)及び人口動態の推移(平成17年～26年)



(1) 西京区の学区別の人口の動向（平成 7年から平成 27年の増減率）

■平成 7 年から平成 22 年までの人口動向

- ・洛西支所では洛西ニュータウンの 4 学区は減少傾向が著しく、大原野学区も減少傾向が続き、桂坂と大枝学区は増加傾向であった。
- ・本所では嵐山東学区だけが減少傾向で、松尾学区と桂川が増加傾向、桂徳、桂東、松陽学区は微増傾向で、その南の学区は横ばいである。本所は北から減少、増加、横ばいとゾーンで傾向が現れていた。

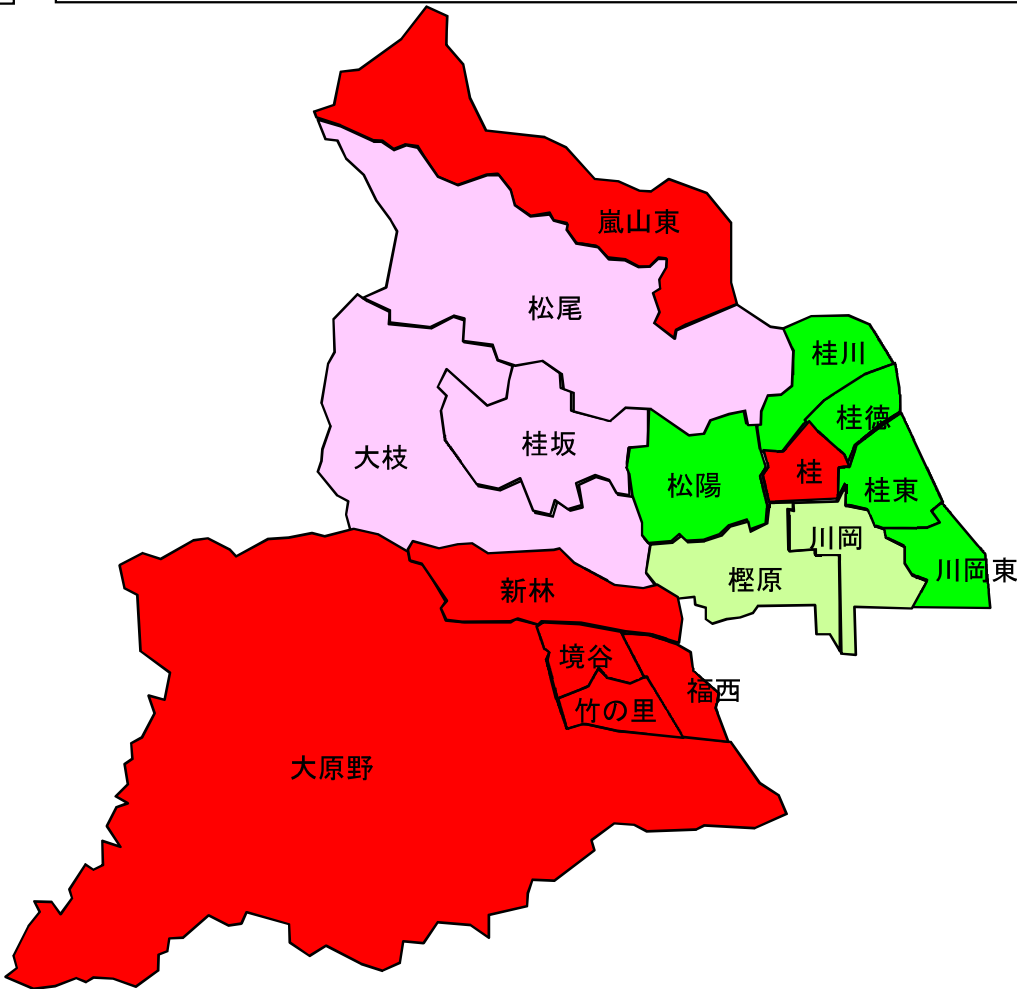


◆人口増減（平成 22 年/平成 7 年の増減率）

増減率	～85%	85%～95%	95%～105%	105%～115%	115%～
増減	減少	微減	横ばい	微増	増加

■平成 17 年から平成 27 年までのこの 10 年間の人口動向

- ・洛西支所では桂坂と大枝学区でもこの 5 年間では減少傾向に転じており、洛西支所のすべての学区で人口減少傾向となっている。
- ・本所では嵐山東学区と桂学区はこの 10 年間は減少傾向が続き、松尾学区は増加から減少、川岡と榎原学区は減少から増加に転換し、その他の学区は増加傾向が続き、学区によって動向が異なる。



◆人口増減（平成 17 年～平成 22 年の増減と平成 22 年～平成 27 年 5 月の増減の比較）

増減率	減少→減少	増加→減少	減少→増加	増加→増加

○人口増減（平成17～22年、平成22～27年）

人口増減	H17～H22	H22～H27
桂・桂川・桂東・桂徳	101.9%	102.5%
桂川学区	103.3%	103.2%
桂徳学区	105.3%	106.8%
桂学区	97.6%	99.2%
桂東学区	102.3%	101.7%
川岡・川岡東・榎原	98.8%	101.2%
川岡学区	99.0%	100.9%
川岡東学区	102.8%	102.2%
榎原学区	96.6%	100.9%
松尾・松陽・嵐山東	100.5%	99.2%
松尾学区	101.1%	97.6%
松陽学区	100.7%	102.0%
嵐山東学区	99.3%	98.0%
洛西ニュータウン	91.5%	92.8%
新林学区	93.4%	95.0%
福西学区	90.2%	92.3%
境谷学区	92.3%	92.9%
竹の里学区	89.8%	90.2%
大枝学区	102.0%	99.8%
大原野学区	95.6%	96.0%
桂坂学区	106.2%	99.6%

(注) 平成17年、22年は国勢調査、平成27年は推計人口

■人口動向からの検討課題

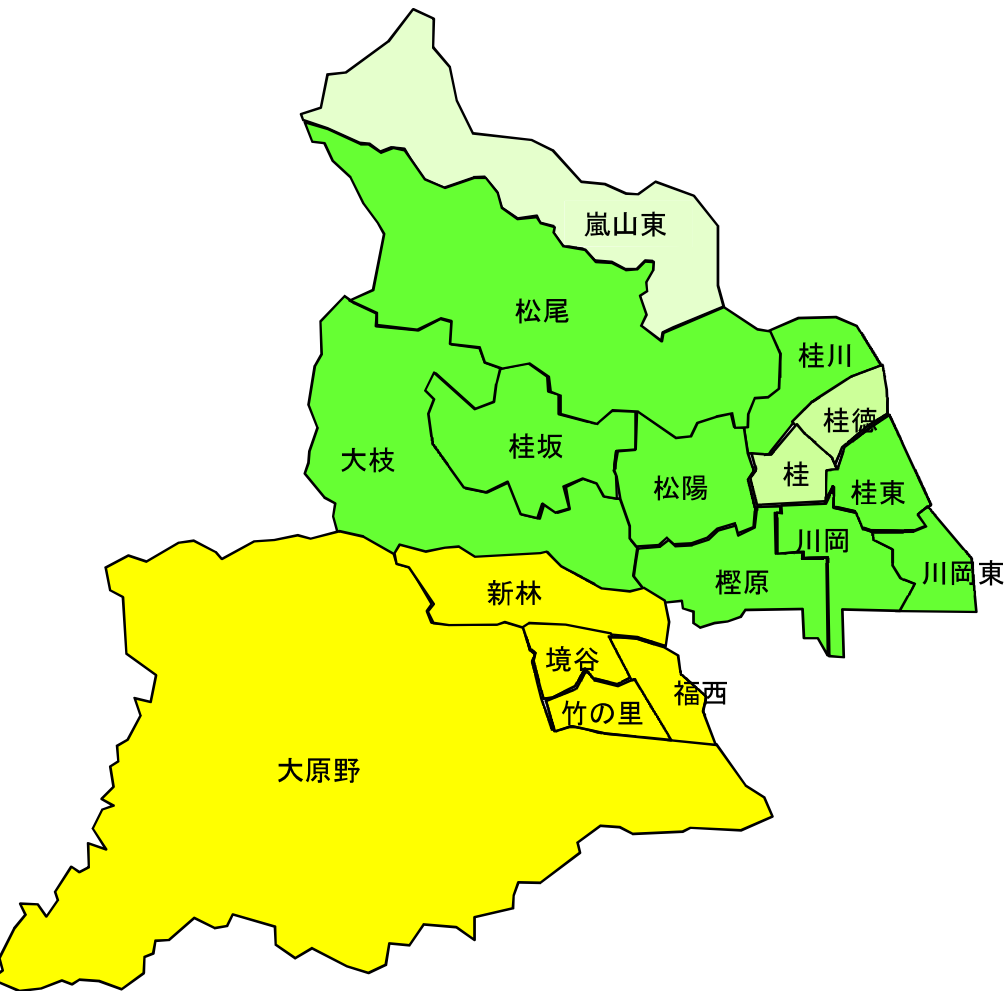
- 洛西支所はこれまで人口増加が進んだ桂坂と大枝学区でも減少に転じ、支所全体が人口は減少傾向にある。特に洛西ニュータウンの減少傾向が著しい。
- 本所は嵐山東と桂学区は減少傾向が続き、その他の学区はまだ増加傾向がみられる。

(注)平成 7 年から 22 年は国勢調査データです。平成 27 年は推計人口です。今回は人口増減をみるために二つのデータを比較していますが、人口の絶対数値での比較ではありません。

(2) 西京区の学区別の世帯数の動向（平成 7年から平成 27年の増減率）

■平成 7 年から平成 22 年までの世帯動向

- ・洛西支所では洛西ニュータウンと大原野学区はほぼ横ばいで、他の学区は増加傾向にあった。
- ・本所では嵐山東、桂、桂徳学区は微増で、その他は増加傾向にあった。

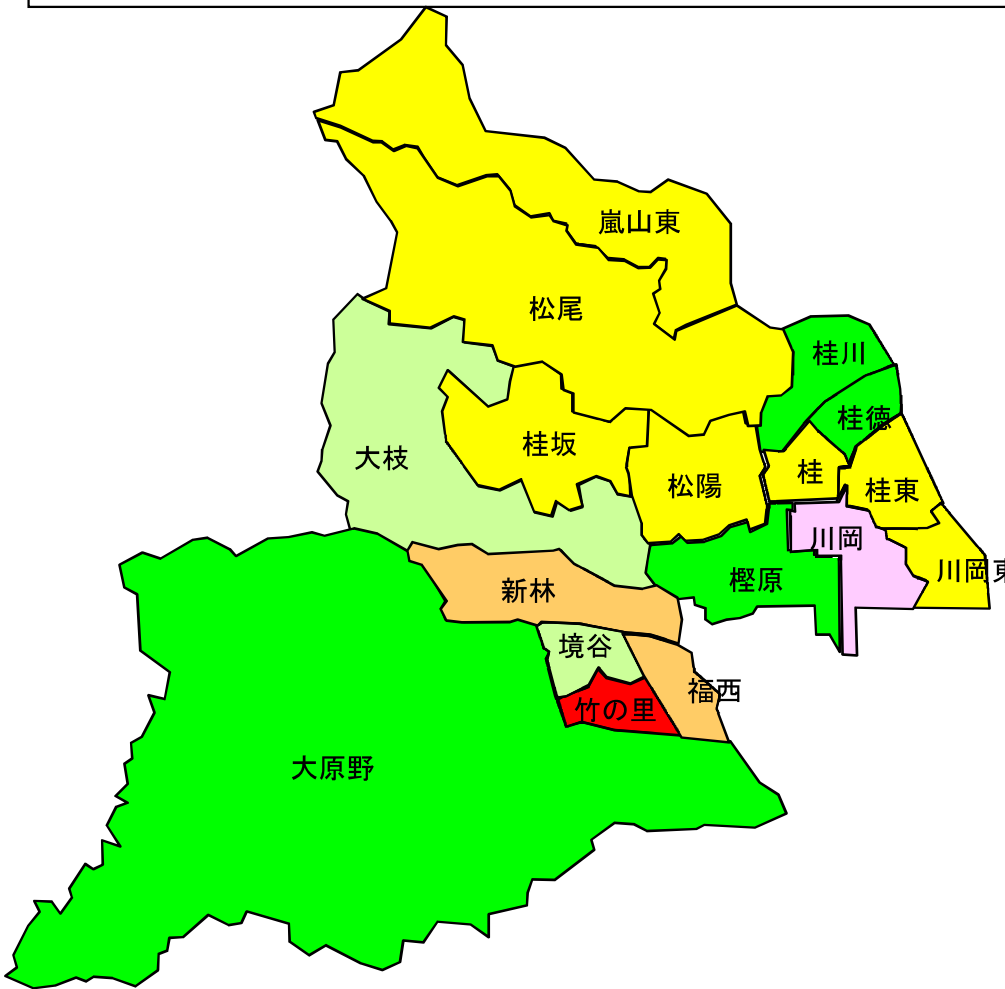


◆世帯数の増減（平成 22 年/平成 7 年の増減率）

増減率	～85%	85%～95%	95%～105%	105%～115%	115%～
世帯動向	減少	微減	横ばい	微増	増加

■平成 17 年から平成 27 年までのこの 10 年間の世帯動向

- ・洛西支所では洛西ニュータウンでは竹の里学区の減少傾向が続き、他の学区は横ばいから微増で、ニュータウン全体としては微減傾向である。大原野、大枝学区はやや増加傾向、桂坂学区は増加率が低下傾向にある。
- ・本所では川岡学区だけがこの 5 年間で減少に転じており、その他の学区は増加傾向ではあるが、増加率が横ばいか、減少傾向にある。



◆世帯増減（平成 17 年～平成 22 年の増減と平成 22 年～平成 27 年 5 月の増減の比較）

増減率	減少→ 減少	増加→ 減少	減少→ 増加	増加→増加		
				17/22>22/27	17/22≒22/27	17/22<22/27

○世帯増減（平成17～22年、平成22～27年

世帯増減	H17～H22	H22～H27
桂・桂川・桂東・桂徳	104.8%	105.4%
桂川学区	104.5%	106.5%
桂徳学区	106.1%	110.7%
桂学区	103.5%	101.4%
桂東学区	105.2%	104.3%
川岡・川岡東・樫原	105.4%	100.8%
川岡学区	109.5%	93.9%
川岡東学区	108.5%	105.7%
樫原学区	100.6%	104.4%
松尾・松陽・嵐山東	103.9%	102.2%
松尾学区	101.9%	101.4%
松陽学区	106.1%	104.0%
嵐山東学区	104.3%	101.2%
洛西ニュータウン	98.9%	99.6%
新林学区	99.3%	100.5%
福西学区	97.7%	100.1%
境谷学区	100.4%	100.4%
竹の里学区	98.0%	96.9%
大枝学区	104.0%	104.3%
大原野学区	100.0%	101.5%
桂坂学区	112.3%	105.9%

(注)平成17年、22年は国勢調査、平成27年は推計人口

■世帯動向の検討課題分析

- 洛西支所はこれまで増加であった桂坂と大枝学区でも増加率が落ちており、新規の住宅供給が減少している。
- 本所は全体としてはまだ増加傾向であるが増加率は落ちており、新規の住宅供給が減少傾向と想定される。

(注)平成 7 年から 22 年は国勢調査データです。平成 27 年は推計人口です。今回は人口増減をみるために二つのデータを比較していますが、人口の絶対数値での比較ではありません。

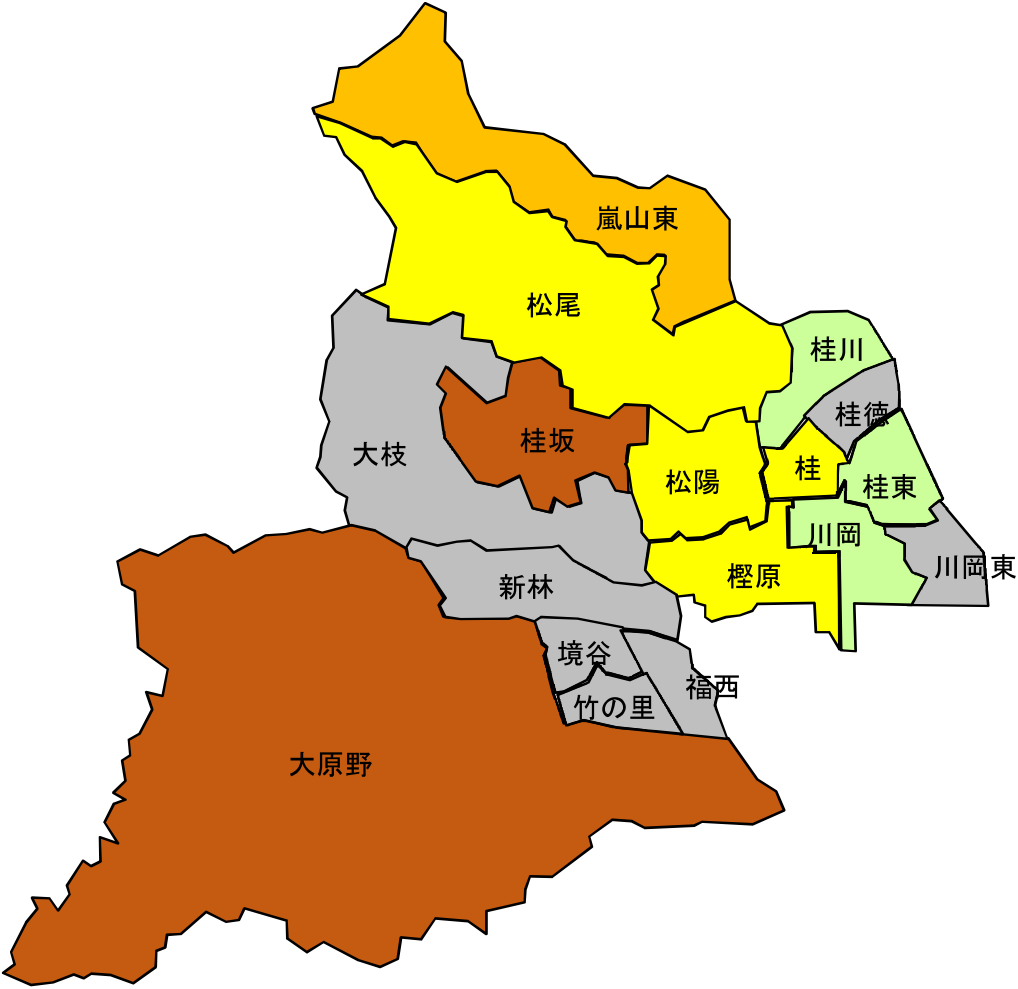
(3) 西京区の学区別の住宅の建て方別、住宅所有関係の分析（平成 22 年）

■住宅の建て方別

- ・洛西支所では桂坂と大原野は戸建てが 80 % を超え、洛西NT と大枝は共同住宅が半数を超える。
- ・本所では嵐山東が 65 % で、松尾、松陽は 50 % を超える。桂と檉原は戸建てが 50 % を超えるが、その他の東部の学区は戸建てが 50 % 未満で、桂徳と川岡東は共同住宅率が 50 % を超える。

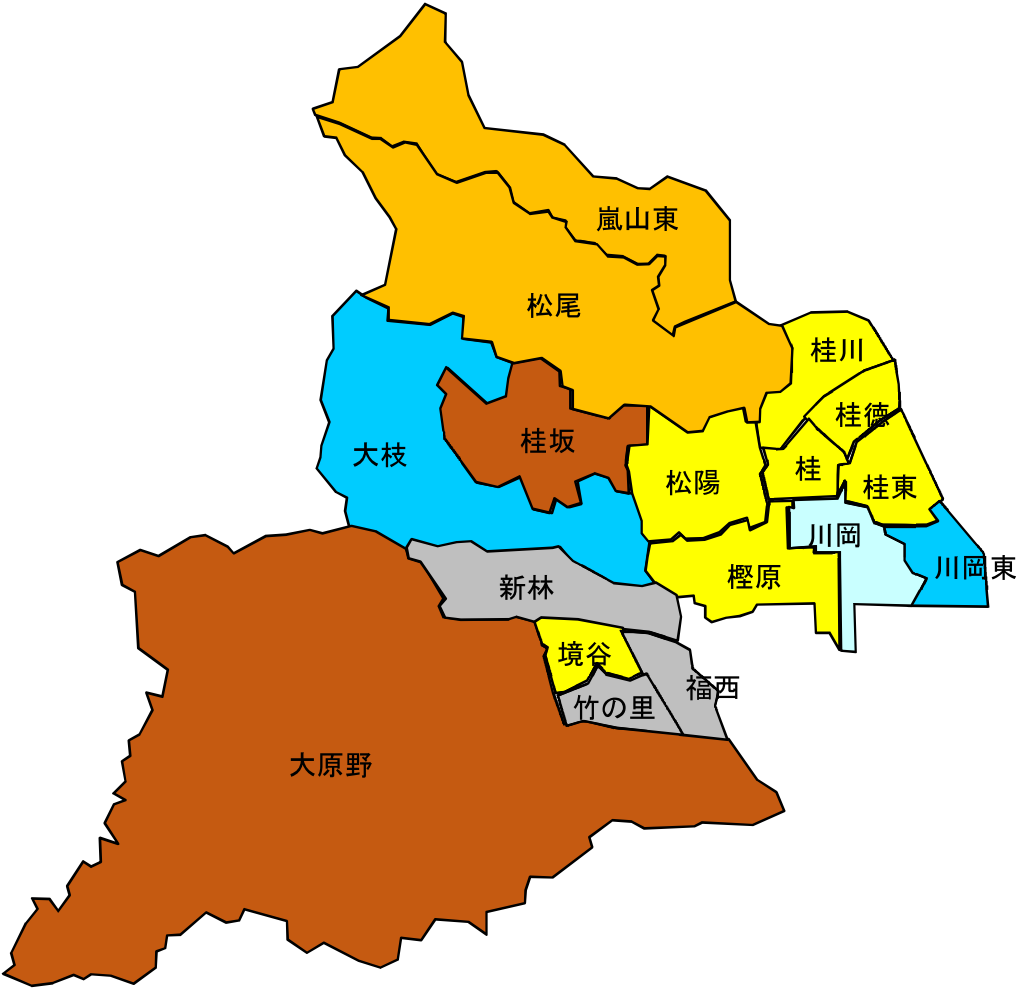
■住宅の所有関係別

- ・洛西支所では桂坂と大原野は持ち家率が 80 % を超え、洛西NT は公的住宅が半数を超える。大枝は民営借家率が 50 % を超える。
- ・本所では嵐山東、松尾が持ち家率が 65 % を超え、川岡は民営借家が 50 % を超え、川岡東は戸建ても多いが民営借家率も 40 % を超え、その他の学区は持ち家率が 50 % 以上である。



◆住宅の建て方別比率（戸建て住宅と共同住宅の比率：平成 22 年）

戸建て 80%以上	戸建て 65%以上	戸建て 50%以上	戸建て 50%未満 戸建て≒共同住宅	共同住宅 50%以上



◆住宅の所有関係別比率（平成 22 年）

持ち家 80%以上	持ち家 65%以上	持ち家 50%以上	公営・公団 50%以上	民営借家 50%以上	戸建て>民営借家 民営借家 40%以上

■住宅の建て方、所有関係からの分析

（洛西支所）住宅の特性は桂坂と大原野、洛西NT と大枝の 2 グループに大きく分かれる。
（本所） 北部は持ち家率が高く、桂駅周辺は持ち家が半数程度、東側では民営借家が多い。